第4章 施策評価の結果

1 結果の概要

江南市では、第6次総合計画の進行管理を行うため、行政評価を行っています。市民と行政の協働により、 総合計画に設定した目標を実現するため、行政が行う大きな行政活動単位である施策の評価と、個々の事 務事業について、達成状況や効率性などについて評価する事務事業評価を行いました。

実施対象施策:事業数

·施策 75施策

·事務事業 577事業

(1)分野ごとの成果の達成状況

(件)

		設定した	成果の達成状況の評価						
	施策数	成果 指標数	0		+				
Ⅰ まちづくり分野	19	37	32	2	3	0			
Ⅱ ひとづくり分野	15	43	24	7	11	1			
Ⅲ しごとづくり分野	4	6	3	2	1	0			
Ⅳ ちいきづくり分野	21	44	27	10	7	0			
Ⅴ 行政分野	16	32	26	4	2	0			
合 計	75	162	112	25	24	1			

○ :90%以上達成した = :70%以上達成した :達成していない - :達成状況の評価が困難

(2)事務事業の評価結果

〈必要性〉

公的関与の必要性や社会情勢及び 市民ニーズから事業の『必要性』をA・ B·C·Dの4ランクで判定しました。

〈有効性〉

総合計画において、市長の戦略政 策や成果目標の達成に資する度合い や、サービス水準の設定から事業の 『有効性』をA·B·Cの3ランクで判定し ました。

〈達成度〉

設定した成果目標に対する『達成 度』をA·B·Cの3ランクで判定しまし た。

〈効率性〉

事業の手法について、実施主体の 妥当性や事業費・人件費などの経済 性の観点から事業の『効率性』をA・ B·Cの3ランクで判定しました。

〈総合評価〉

上記の「必要性」、「有効性」、「達成 度」、「効率性」の4項目の判定結果か ら、総合評価として「継続」、「改善」、 「見直し」、「休止・廃止(「完了」含 む)」の4項目で判定しました。

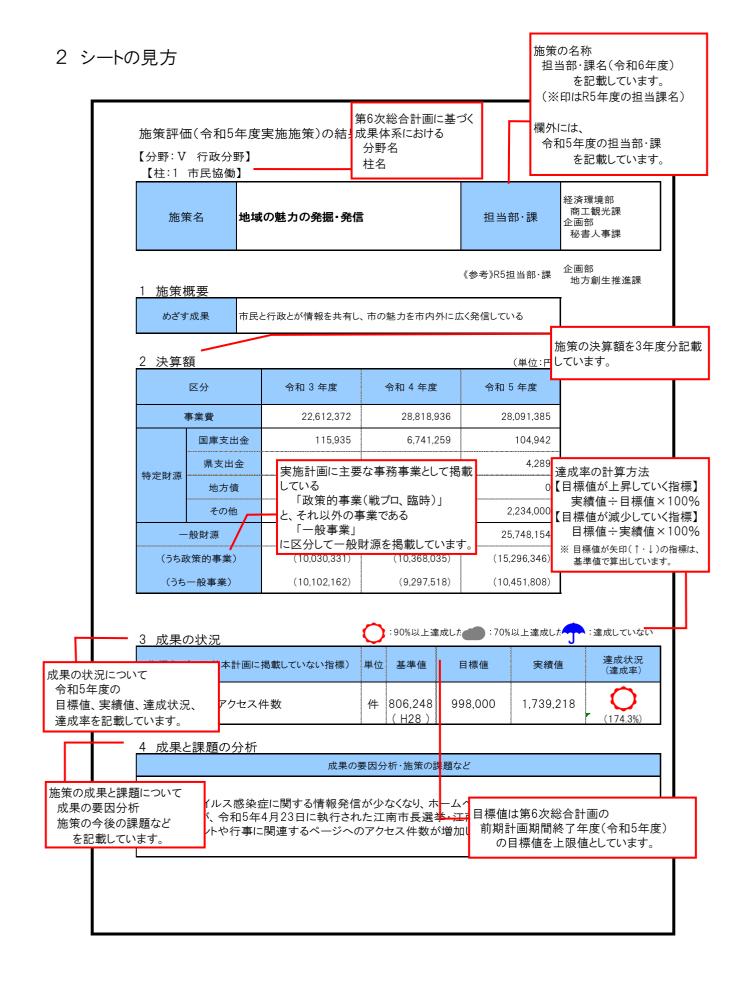
	評価	事務事業数
Α	必要性が高い	82
В	必要である	491
С	必要性が低い	3
D	必要でない	1

	評価	事務事業数
Α	非常に有効である	541
В	ある程度有効である	35
С	有効でない	1

評価	事務事業数
A 大幅に達成している (目標を上回る成果があがっている)	11
B 達成している (概ね目標どおり達成している)	560
C 達成していない (目標を下向る成果しかあがっていない)	6

	評価	事務事業数		
Α	高い(改善の余地はほとんどない)	548		
В	どちらともいえない(改善の余地は少ない)	29		
С	低い(改善の余地は大きい)	0		

評価	事務事業数
継続	555
改善	1
見直し	0
休止・廃止(「完了」含む)	21



施策に係る事務事業の 決算額 評価結果 を記載しています。

事務事業の決算額を3年度分記載しています。

5 施策の実現手段となる事務事業の評価結果

<u> </u>	旭泉の大切子校にはも予切手来の日間相不										
±≈4×		主要施	決算額(円)			評価結果					
	事務事業		令和 3 年度	令和 4 年度			必要性				総合評価
1	シティプロモーション事業(商)	•	22,566,883	28,814,074	24,	617,779	В	А	В	А	継続
2	市勢要覧作成事業 (秘)		-	0	3,	432,000	В	А	В	А	継続
3	広聴事業(秘)	•	45,489	4,862		41,606	В	А	В	А	継続

※(商)は商工観光課、(秘)は秘書人事課が所管する事務事業

- ■マークが付いている事務事業は、別ページに詳細を掲載しています。 掲載対象事業は、以下の事業です。
- ・実施計画に掲載した政策的事業(戦プロ、臨時)
- ・主要な一般事業

評価結果について					
必要性	A:必要性が高い B:必要である C:必要性が低い D:必要でない				
有効性	A: 非常に有効である B: ある程度有効である C: 有効でない				
達成度	A:大幅に達成している(目標を上回る成果があがっている) B:達成している(概ね目標どおり達成している) C:達成していない(目標を下回る成果しかあがっていない)				
効率性	A:高い(改善の余地はほとんどない) B:どちらともいえない(改善の余地は少ない) C:低い(改善の余地は大きい)				
総合評価	【総合評価判定方法】				

